

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている、C : あまりできていない、D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
笑顔で明るい元気な子	「もっとやりたい」「もっとこうしたい」がいっぱい	子どもが夢中になり、いいこと考えた！もう1回！と思えるような環境構成を考えて保育している	子ども達からの「こうしてみたい」「こうやったらどうなるかな？」等の思いを受けとめて一緒に考えたり試したりする中で、子ども達から「いいことおもいついた！」の言葉がよく出ていたり、何度も楽しんだり試したりする姿が見られている	A	A	子ども達がやりたいことが存分にできている。保育者が子どもの発想をサポートしている。子ども達が自分で環境を構成している。この“自分で”ということが生涯の姿につながっていくと思うので大切にしていって欲しい	自分のクラスだけでなく園全体で子どもの姿を共有し語り合うことで、もっと面白い環境アイデアが生まれ、子ども達の「もっと」につながっていくと思うので園全体で語り合う時間と場をつくっていく
		子どもが自分の思いや考えを安心して表現できるよう、子どもの目線になって共感したり、一緒に楽しんだりしている	子どもの思いや考えを受けとめ、共感し一緒に楽しむことで子ども達が安心して自分の思いを表現している。また、研修の中で「一緒に楽しむとは？」ということ話し合う場をつくったことで、その学びを活かして保育することができている	A	A		子ども達の目線になって共感し、一緒に楽しみながら子ども達が求めるものを保育者が更に、もっと、と考えて準備したり構成していくことを繰り返し大事にしていく
		子どもが何を気づき、何を楽しんでいるのか、保育を振り返り、日々の保育にいかしている。	少しの時間でもクラスで保育の振り返りの時間を設けることで、いろいろな見方や捉え方で振り返りができたり、職員間で共通理解することができ、明日の保育、環境準備、環境構成へとつなげることができている	A	A		限られた時間の中で話し合う時間を確保することは難しい日もあるが、話し合う意義、大切さを理解し、要点を絞って簡潔に行う意識をもって10分の振り返りを継続していく。今後、様式については検討していく

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	子どもの育ち、発達を捉えながら学年目標に向けて保育を行っている	個としての育ちや発達、学年としての育ちや発達の両面から子ども達の姿を捉え、今何が子どもにとって大切か、何を体験して欲しいか考えながら保育を行っている。また、各クラスの公開保育を通じて学年目標や重点目標に向けての子どもの育ちについて考える機会がもてている	A	A	連携、ということでは、子どもの体調など細やかに丁寧に伝えるなど対応して欲しい	園全体で学年ごとの子どもの育ちを捉え、育ちのつながりを意識する機会をつくる機会が必要だと感じるので、期ごとに話し合いの場をつくり、子どもの育ちを確認できるようにしていきたい
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	園生活の中で子ども一人ひとりが安心・安定した気持ちで過ごせるよう、思いを受けとめ、丁寧に関わっている	一人ひとりの生活リズムやペースに合わせ、思いを受けとめて、職員全体で丁寧に子どもに関わることができ、安心して過ごす姿につながっている。自分のクラスだけでなく園全体で子ども一人ひとりを見守ろうという意識がもてている	A	A		子ども一人ひとりが安心して過ごせるように、早・遅番との引き継ぎ時やクラス内の保育者間での連絡、報告、確認の連携を細やかに行う意識をもっていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	「もっとこうしたい」「もっとやりたい」と子どもが思った時に、すぐに実現できるように玩具や道具が準備されている	振り返りの中からの気づき、保育者の願いや子どもの願いや思いを職員間で共有し、遊び出しの環境構成・準備が考えられている。子ども達がもっとやりたいと思った時にすぐに実現できる方法を探りながら保育している。月1回のあそび会議で他学年のあそびを情報共有することが環境構成や保育に活かされている	A	A	能登半島地震もあり、訓練もどこまでやったらいいの…と感じるところもある。漠然とした不安がある。園としての課題は？小学校は防犯カメラも設置されている。様々な対策をして欲しい	子どもが何を楽しんで、どんなことを経験し学んでいるのかを捉え、深く考え、語り合いながら、子ども達のタイミングで欲しいもの、必要なものが提供できる環境をつくっていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な場面を想定した訓練を行う中で、状況に応じた行動や連携がとれるようになる	避難訓練・不審者訓練ともに様々な想定のもとで訓練が積み重ねられ、子ども達もその年齢なりに訓練の大切さを感じ訓練に参加できている。その都度クラスや乳・幼児単位で反省、課題をあげ次の訓練に活かせるように意識して取り組むことはできているが、園全体での訓練の振り返りの機会がもっと必要である	B	B		その月ごと、反省、課題を挙げ、それぞれが検討したことを更に職員会議で園全体で発信、検討し、次の訓練に活かしていくようにする。また、保護者へ避難訓練等についての発信の仕方を工夫していきたい
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	個人差に考慮しながら、年齢に合った基本的な生活習慣が身につくように援助する	その子その子の今の姿や意欲に応じて声かけ、援助の仕方が担任間で話し合われ、丁寧にすることができている。毎日の着替えが自分の身の回りを整理整頓することや身の回りのことを自分でやろうとする習慣へとつながってきている	A	A	小学校では、自分の身の回りの整理整頓ができる姿が大事になってくる。ぜひ、幼児期から丁寧に教えていって欲しい	日々の生活の中で流れ作業にならないように、丁寧にその子に沿った援助をしていくと共に、子ども達が自らその必要性を考えて自分の身の回りのことを行っていけるように支援方法を考えていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の発達や個性を十分に把握・理解し、適切な支援を検討し、全職員で共通理解をしながら支援をしている	定期的なきりんの会が行われ、小集団での活動のなかで、より細やかな支援ができたり、子ども達にとっても成功体験を重ねる場となっている。支援児担当者会議も行われ、よりよい支援方法を探ったり、それぞれの悩みを伝え合う機会がもてている。また、月1回のケース討議で子ども達の姿が報告、討議され、その後実践されたことが報告されている	A	A		支援学級も今年度5クラスから来年度は6クラスになる予定。支援学級の子も落ち着いて過ごせている。これも園からの継続された支援につながっているというもあると思う。今後も丁寧な支援を継続しつなげていって欲しい
5 組織運営	(1)組織体制の充実	各自が責任をもって分掌に取り組み全職員へ書面などを使って発信する	各分掌が責任をもって取り組むことはできている。企画は立てても進行段階で役割の連携や責任の所在が弱くなってしまうところがあった。具体的な進捗状況の確認、発信が分担任や進行表の貼り出しだけでは足りなかった	B	B		年度始めに今一度分掌の役割分担やリーダーの役割りを皆で確認してからスタートできるようにする。また、分掌からの声かけ、発信、確認が足りないので職員一人ひとりが声を挙げていくことを意識していく
6 研修	(1)研修体制の充実	子どもの実態を捉え、重点目標に近くように日々の手だてを行い、全職員で学びを共有する	公開保育ではなるべく多くの職員が参加することで多くの意見を出し合い、学び合うことができている。また、事前・事後研修で写真や動画をつかって話し合い、その報告を受けることで毎回参加できない職員にも、わかりやすく伝えられ学びになった。園内研修で様々な研修を行い、保育者が多様なことを考え、学ぶ機会がつけられた	A	A	書き出すことがヒヤリハット対策ではないのでは？書き出すことに負担があるなら紙ベースでなくても周知させる方法があるのではないか。今の報告、周知、改善への体制を強化して欲しい	園全体で学び合える研修体制を引き続き工夫していく。時間、内容ともに検討していきながらより良い研修体制をつくっていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	ヒヤリハットを検証したり、点検を行ったりしながら、安全な園庭・室内環境をつくる	園内をお互いに見合うことで、より安全な環境を意識することができた。ヒヤリハットの記入がすぐに記入できず、そのままになってしまい、提出できないこともあったが、すぐに検討や対応が必要なのは口頭で伝え、全体で共有し改善できる場所はすぐに改善するように心がけることができている	B	B	先生方の負担を減らすことで、より細やかに子どもに対応ができるのではないか	毎日の打ち合わせで、その日や前日の午後起こったヒヤリハットを報告し、情報共有していくと共にその場で書記が記入していくようにする。また、毎月の職員会議等で傾向と対策を分析し未然に防げるようにしていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	各学年の遊びの様子や学びの姿をドキュメンテーションやボードでわかりやすく保護者に発信している	日々の様子から、今楽しんでいることや今の育ち、学びというところを意識して写真を添えて発信するよう意識できている。また工事により保護者に対応できる時間・空間が限られているので、乳児組ではより具体的に連絡ノートを記入することを心がけた。各クラスのボードが門に並びことで保護者全体に園全体の姿として発信することができていた	A	A		子どもの今の姿思い、育ちを写真でわかりやすく伝えることは継続しながら、その教育的意味や価値を伝えていく為にドキュメンテーションをクラス毎見合ったりして作成の仕方についての学んでいく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	公開保育・公開授業・研修を通して小学校や近隣園との連携を深める	公開保育に学校の先生や近隣の園だけでなく様々な園の先生に参加してもらったり、また職員が他園の公開保育に参加したりして学びを得ることができている。また、年長が小学校の校庭で遊ばせてもらう体験は子ども達にとって大きな刺激となった様子だった	A	A		年間計画を立てて、年長児と小学生の子ども同士の交流の場がもてるように、年度初めや情報交流会で学校と話し合いの場がもてるようにしていきたい。連携園との交流も計画的に行っていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	子どもたちがいろいろな体験ができるように、職員が地域のよさや特徴を知り、地域の資源を積極的に保育に取り入れている	年長児を中心に地域の方の協力で地域の特性を取り入れながら保育をすることができた。竹は遊びのなかで子ども達にとっても身近なものになってきている。佐渡のふれあいサロンへの訪問も2回行うことができた。次年度、これらにつなげていきたい	B	B	コロナ禍が空けてこれからの取り組みだと思う。前回の評議員会で地域とのつながりができた(佐渡ふれあいサロン)今年、再開された取り組みをぜひ、次年度にもつなげていって欲しい	今年の取り組みを次年度もつなげていきたい。そのために保育者が地域に関心を寄せ、地域の強み(竹、丸子川、丸子紅茶など)を意識をもって保育に取り入れる工夫を心がけていく